

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600151		
法人名	社会福祉法人帯広太陽福祉会		
事業所名	グループホーム広野の家		
所在地	帯広市広野町西3線152番地		
自己評価作成日	平成24年11月17日	評価結果市町村受理日	平成25年2月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.keigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&JigyosyoCd=0194600151-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成24年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域協力会により、畑や環境の整備が行われ、利用者と共に野菜を作り、草取り、収穫の楽しみ、新鮮な野菜で料理をつくっている。にわとり、ウサギ、猫に餌を与えたり、小屋の掃除や世話をすることで、やりがいや安らぎを感じていただいている。四季おりおりの風景を見ながらの散歩も楽しみの一つになっている。食事の準備、配膳、かたづけなどは日常の生活の一部となっていて楽しみながらおこなっている。自宅で生活しているような自然な姿で日々笑顔で過ごしてもらえよう、職員は努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

十勝平野の南に位置し日高山派の裾野で大自然に恵まれ、事業所周辺は農村地帯で田園風景はもとより、遠くの間山など自然の美しいパノラマが何時でも眺めることが出来て、いながらにして季節を全身で感じる事が出来る環境である。職員は家族のように利用者一人ひとりに寄り添い、明るい声掛けをして、利用者に気をかけている。利用者同士の仲もよく、役割分担でウサギ、猫に餌を与えたり、それぞれ好きなソファに座り会話を楽しみながら、1日1日を大切に過ごしている。管理者は職員の人材育成に熱心で、スキルアップのために内部・外部の数多くの研修に参加させ、質の高いケアを目指し努力している。毎月利用者の様子を記したお便りを家族に届けており、なかなか来訪できない家族も情報を共有できている。地域との関わりも密で、地域住民の協力会により遊歩道、東屋が作られ、野菜作り、草刈などへの協力、色々な行事にも地域の方から声掛けをもらい、利用者と共に参加しており、まさに地域に密着した事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事に積極的に参加し交流を深めます。理念におきりびんぐ、休憩場所に掲示し常に意識しながら仕事をしている。	「地域との関わりを深める」「利用者一人ひとりを尊重したケアを提供する」等の理念を事業所内の見易い場所に掲示して、常に理念に基いたケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域協会有り施設周辺の整備をして頂いている。地域や小中学校の行事にも積極的に参加している。	小中学校のボランティアが来訪し、又、管理者が学校に出向いて認知症の講義をしている。地域の方から野菜作りや深く積もった雪の除雪などの支援を受けて交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を対象に認知症についての公開講座を行った。また中学校の授業で認知症について説明をし利用者との交流もおこなった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回実施し情報開示している。色々な助言を頂いてサービスの向上に努めている。	地域住民・ボランティア・学識経験者・地域包括センター職員・家族で構成され、2ヶ月に1回開いている。事業報告などの後、質問を受け、助言と提案を得て、サービス向上に結び付けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状報告やサービスを行う中で相談している。	主に地域包括センター及び社会福祉協議会を通して市の担当課と連絡を取っている。	市担当課に直接出向き、現状報告等を行い、または情報をもらうために積極的にコミュニケーションを図ることで、行政との連携および協力関係を一層築くことを期待する。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状態を常に把握し会議などで職員間で確認し合い拘束の無いケアを行っている。	身体拘束に関しての職員教育は徹底しており、外部も含めて年に4回から5回の研修を受けている。利用者一人ひとりの外出傾向を把握し、行動抑制しないように支援している。施錠は夜間のみ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し職員の知識向上を図り虐待防止に努めている。		

グループホーム広野の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修で弁護士の方による研修会に参加している。必要性のある方に対して助言、協力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時重要事項の説明書、運営規定等の説明を行い不明な点については説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し意見、要望等を聞く機会をもうけ面会時にも対応している。	利用者の思いや意見は日常の会話の中から汲みとっている。毎月の便りで利用者一人ひとりの日々の生活状況を克明に報告して、家族からの意見や要望を引き出している。また、年に2回家族会を開き、意見要望を聞いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の提案を取り上げるシステムがある。月1回スタッフ会議を行い自由な意見が言い合えるように努めている。	職員が自由に意見が言える雰囲気がある。職員の提案制度があり、採用された良い提案には理事長賞を授与するなどして、改善のための提案を引き出す工夫がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の適性を見極め、話し合いの元、得意分野を生かせる業務分担を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が外部研修に参加し会議等で発表し、意識や技術の向上を行っている。月に1度の課内研修でホーム内でも、勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝高齢者グループホーム協議会に加盟し相互研修等、全ての研修に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者家族の見学や面談などで不安を解消出来るように対応し、早くなじんでもらえるよう工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面談を行い、要望等を聞き不安の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前の見学、面談を行いホームでの生活、環境、サービス内容等説明し納得してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体の生活に重点を置き、役割や趣味活動が自由に行えるように配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には現状報告を密にし、家族と共有できるよう努めている。通院、外出などのお願ひもしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のこれまでの生活や想いを聞いて、馴染みのある場所へのドライブも行っている。	家族を含め馴染みの人の面会が途切ることがないよう機会を設けて、関係が断ち切れない支援を行っている。個別の外出も職員が同行支援している。家族と墓参りもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流の機会を持ち助け合う関係を作っている。散歩、ゲーム等で関わり合いができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に入所された方との関係が継続出来るようにホームに来ていただいたり訪問したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が遠慮することなく何でも話し合えるような信頼関係を築いている。本人の希望に合った生活ができるよう支援している。	長く勤務する職員が多く、日々の関わりの中で思いや意向を敏感に吸い上げている。意思疎通の困難な場合は、家族や関係者から情報を得て意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し家族からも生活歴を聞き今までの暮らしができるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースに合わせながらも、持っている力を発揮できるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者の状態を把握し会議等で意見を出し合い、モニタリングを実施しチームで取り組んでいる。	利用者・家族の要望を基に利用者の状況を把握して、職員全員で意見を交わしながら介護計画を作成している。変化があった場合は、そのつど見直し、計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日中、夜間とも記録している。介護計画に基づいて記入する事で、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域に即したホームとしての地域住民の協力を仰ぎながら在宅の高齢者との交流を持っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には積極的に参加している。また文化的な環境に触れることができるよう、公共施設、娯楽施設等に外出している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に嘱託医に診察してもらっているが、本人の希望するかかりつけ医にも診てもらえる様支援している。看護師も定期的に訪問し適切な医療が受けられるよう支援している。	家族の希望によりかかりつけ医への通院に同行している。常に家族の意見を聴いて関係医療機関と相談しながら支援している。月に1回は利用者全員が嘱託医の検診を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問により、状態報告しながら適切な指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院については医療機関と連携し、入院が長期にならないように配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、本人、家族の希望があれば、可能な限りホームで対応できるよう努めている。	契約時に、重度化した場合の対応に係る指針並びに看取り介護指針を家族に説明している。利用者の心身の状態を見ながら家族と話し合い、協力医の指導を受け看取りまでの支援がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、緊急時にはすぐに対応できるように課内研修で全員で周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の緊急マニュアルと緊急連絡網を作成し夜間を想定した訓練を定期的に行っている。近隣の方には地域防災協力員になってもらっている。	地域住民も参加して、夜間も想定しての避難訓練を年3回実施している。近隣住民宅の物件に自動火災通報装置を設置してもらい緊急時に備えている。緊急時の対応マニュアルと緊急連絡網を整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり、プライバシーを尊重した対応や声掛けを心掛けている。会議等で全職員に意識を徹底させている。	利用者個々の人格を尊重し、それぞれの性格に合わせたケアに心掛け、誇りやプライバシーを損ねることのないよう、尊厳を傷つけないよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思をしっかり聞いて出来るだけ本人の希望がかなえられるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて散歩や家事など、本人の気持を尊重しながら生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が必要な化粧品、衣類等職員が代行して購入したり本人と一緒に掛け、おしゃれができるよう支援している。		

グループホーム広野の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう、調理や盛り付けは一緒にやっている。	食事は総て手作りで、利用者の意向を聞いてメニューを作っている。能力に合わせ買い物に行ったり、調理や後片付けも職員と一緒に楽しく行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録用紙に一人ひとりの食事、水分量の記入を行い、健康状態の把握に努めている。変化のある時には看護師と相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と就寝前には必ず口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け誘導を行い出来るだけトイレでの排泄ができるように支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握しその人に合わせたトイレ誘導をして、自立排泄が出来るように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩等で運動量を増やし、出来るだけ自然排便ができるようにしている。玄米、オリゴ糖、センナ等を利用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後からは入浴時間を設定し本人の気分に合わせて入浴できるように配慮している。足が冷たい方には就寝前に足浴を行っている。	入浴日は特別に設定していない。入浴は午後からで、週に2回は利用者全員が入浴している。拒否する利用者もいるが、強制はせず、タイミングを計りながら声掛け工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的な生活を送る事で安眠の確保を行っている。また昼食後は少し休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は必ず読んで副作用には注意をしている。また状況を観察しながら看護師、医師にも相談し薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族より生活歴を聞き、それを参考にしてその方の役割、楽しみを会議等で話あい提供している。		

グループホーム広野の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の日課となっている散歩のほか利用者の希望に沿って買い物やドライブなど戸外に出る機会を設けている。また利用者、家族、職員との温泉一泊も実施している。	気分転換や五感刺激となるよう毎日散歩に出かけている。買い物やドライブなど思いに沿って出来る限り外出支援を行っている。個別での外出支援も積極的に行っている。全員で外食にも年に1回～2回出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方にはして頂いている。小銭程度の買い物等で金銭感覚を失わないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙で定期的に交流したり電話を掛けたい時には掛けてもらい、家族との交流が維持できるように努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れる為に設えを変えたり、花を飾ったりして生活感を出している。利用者の状況によっては過ごしやすい環境にする為に、部屋の模様替えも行っている。	食堂と居間は一体で広く、明るい日差しが入る。季節に応じた装飾が適度に行われ、落ち着いた生活空間が演出されている。嫌な臭いや音もなく落ちついて過ごせる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは利用者が使いやすいソファがいくつか置いてあり、気の合った利用者がそれぞれ好きなところに座り、おしゃべりを楽しんでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参して頂き、家族の写真等が飾られ本人が居心地良く暮らせるよう工夫している。	居室は好みに合わせた家具の配置がなされ、仏壇がおかれ、思い出の写真が飾られるなど、それぞれの利用者が居心地良い暮らしが出来るように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりも多く車椅子の方でも歩行訓練ができるスペースがある。		